

人車鉄道をたどる旅の 見処・味処・お土産

日本のリビエラと呼ばれる 豆相人車

西さがみ浜通り 鉄道温泉夢物語

http://www.odawara-cci.or.jp/jinsya

小田原市～真鶴町～湯河原町～熱海市

網元直営 だるま ☎0465-22-4128



網元直営ならではの、活きのいい地魚を味わえる店。構えも、伝統的な入母屋造りで城下町の風情にとけ込んでいる。小田原駅より徒歩7分。鱈のたたきや鮮魚はもちろん、伝統の味ごま油のてんぷらも人気。

■小田原市本町2-1-30 / 11:00～19:40 / P有り / http://www.darumanet.com/

箱根エリアの電車とバスが乗り放題! 箱根登山バス ☎0465-35-1201



箱根登山電車・ケーブルカー・バス(箱根登山・小田急箱根高速・沼津登山東海・箱根施設めぐり)が1日乗り降り自由のフリーバスで、大人2,000円、子ども1,000円。お得に楽しく小旅行!

■小田原市東町5-33-1 / http://www.hakone-tozanbus.co.jp

寄木ギャラリーツッキ 露木木工所 ☎0465-22-5995



大正15年創業以来、国指定伝統的工芸品の寄木細工を専門に製造販売。また、ギャラリーには伝統的な寄木細工から新しいデザインやアイデアによる作品まで展示。予約制で制作体験(有料)もできる。

■小田原市早川2-2-15 / 9:00～17:00 / 日曜・祝日、第2土曜休み / P有り / http://www.yosegi-g.com

旬の小田原ひもの カネタ前田商店 ☎0465-23-4741



厳選した原料魚と丁寧な製法にこだわり続ける『前田のひもの』。魚本来の味を引き出す塩加減で〜食べておいしい贈って喜ばれる〜小田原の汐の香りを食卓へ届ける全国発送も。ひもの作り体験もできる。

■小田原市早川2-4-3 / 8:00～17:00 / 第2水曜休み

ナチュラルリゾート 星ヶ山 ☎0465-28-1122



ログハウスのカフェテラスに自家製ケーキやアイスクリーム、オリジナルカレー、スペアリブ。森の自然とともに寛ぎの時をお楽しみいただけます。宿泊は4名利用で1人11,800円(1泊2食・サ別)。要予約。

■小田原市根府川592 http://www.hosigayama.com

とれたて海の幸 まるなか ☎0465-68-5111



宿泊もできる元網元。新鮮魚介の磯料理はいうまでもなく、本場鹿児島由来の製法による自家製さつま揚げも絶品。昼食ならボリューム満点の三ッ石定食がおすすめ。1泊2食10,500円〜。30名まで。

■真鶴町真鶴1374-16 / 11:00～19:00(LO) / 火曜定休

湯元通りの源泉宿 大観荘 ☎0465-62-3785



古来からの「かけ流し」の湯。毎日行なわれる館主の『源泉お話し』は湯河原の歴史を語り、源泉井戸の仕組みや効能を語り、温泉ファンでなくても興味深い。シックな館内はのんびりと寛げる。

■湯河原町宮上542 / FAX.0465-62-2125 / http://www.daikan.net

和菓子処 味楽庵 ☎0120-63-5578



湯河原のお土産に本物の和菓子をどうぞ。人気No.1は神奈川県指定銘菓の『みかん最中』。また、かわいい人車の箱に入った『人車もなか』も人気。季節の和菓子を手作りする教室も。人車の模型が目印。

■湯河原町宮上230 / FAX.0465-63-6914 / http://www.a-gogo.net/mirakuan

地元ならではのご案内 湯河原タクシー ☎0465-63-4111



人車駅跡標識9カ所めぐりや、観光スポットを要望に合わせて案内してくれる。貸切は1時間単位。風光明媚な海岸線、人車の旅へタイムスリップ「でも坂道で押しってもらうことはないですよ」

■湯河原町宮上11 / FAX.0465-62-5184

明治の政治家、財界人、文人は湯河原・熱海の温泉めざして『人車鉄道』に乗った。その海沿いのルートは西さがみの産業ルートでもある。当時の旅人は、西さがみの産業をどんなふうに見ていたのでしょうか。古くから受け継がれてきた産業をご紹介します。

西さがみ・地場産業

早川に『木地挽き』という地名があり、ここには木地師の始祖と言われる惟喬親王が祀られている。西さがみの木工の歴史は、ここからはじまった。

寄木細工

寄木細工は自然木の色合いと名工の緻密な技術が生み出す芸術とも言える地場産業の一つ。古くをたどれば奈良時代の正倉院宝物殿の木函箱に寄木で市松模様ほどこされている。伝統の意匠に加え、近年では若い職人によるモダンな模様も注目を集めている。



木象嵌(もくぞうがん)

寄木細工と同じ、何種類もの木肌の自然の色合いを活かしてそれを絵にしたもの。糸鋸を使って曲線や様々な形を作りだす。「一つ仕上げるのに3ヵ月かかる」というほど、手の込んだ細かい作業だ。これは小田原だけに伝わり、西さがみが誇る伝統技術。

かまぼこ

人が集まる城下町、箱根水系の良質な水、そして水揚げ豊富な港。この3要素が小田原かまぼこを育てて全国に広めた。江戸後期、腕に覚えのある多くの人が、かまぼこ職人になるために、小田原へ移り住んできたとか。今も手ごころな保存食から高級品まで、様々なかまぼこが生産されている。



小松石

鎌倉時代から石を産出していた真鶴。江戸時代には船をつかって盛んに江戸まで石材を運んでいたそう。現在は、真鶴産でない石も小松石と言うので、特に真鶴のものは本小松石と呼んでいる。磨きあげると青黒い光沢が出て、なんとも言えない美しさをみせる。

温泉

古くは万葉集にも詠まれた湯河原温泉。江戸時代は湯治場として知られ、明治・大正の時代になっても政界財界の大物が多く訪れている。湯河原が一番熱くなる、と言われる恒例の『湯かけまつり』は、万病に効く湯河原温泉を将軍に献上した故事からはじまったそう。一方、熱海温泉。この地名は1千年以上も前、温泉が吹きあがり海水が熱湯となったとの逸話から称されるようになったとか。なにしろ人車鉄道は『湯河原・熱海の温泉に行きたい』という当時の人たちのアツイ思いから開通したもの。いつの時代も温泉は身近で魅力的。



ひもの



手ごころな食品のイメージがあるひものだけれども「本当においしい」ものは味がちがう。素材となる魚そのものの味に、塩加減、味付け、天日の加減(現在は機械で調節するところがほとんど)が腕のみせどころ。江戸時代からのノウハウで、西さがみのひものは高級品として今もなお人気。

みかん

人車鉄道のルートに沿って温州みかんの畑が広がる。日当たりのいい海沿いの傾斜地は、温暖な気候と共にみかん栽培に最適。湯河原温泉を旅してみかん狩りも楽しむ旅行者も。みかんは農産品であり観光資源でもある。(湯河原みかん狩り組合0465-62-5561)



湯河原と文人たち

国木田独步は『都の友へ、B生より』『湯河原より』など、湯河原を舞台に数多くの作品を残している。島崎藤村は名作『夜明け前』の執筆の傍ら、湯河原で静養し、英気を養っている。夏目漱石も晩年の小説『明暗』の中で湯河原を舞台にしている。このほかに、町内に湘碧山房という居を構えて晩年を過ごした谷崎潤一郎や与謝野晶子、丹羽文雄など数多くの作家たちが湯河原を愛していた。

人車のレール(御獄宅)

5.5mの人車鉄道レール1本が完全な姿で残されている。また、湯河原町の観光会館の南約500mにある橋(熱海市)には、接続用のボルト穴が両脇に2個ずつ付いているレールと、ポイント部分らしいレールも残されている。

逢初(あいぞめ)橋

治承2年(1178年)北条政子は山木判官兼隆との縁談を嫌い、婚礼の夜、頼朝を慕い宴席を抜け出し足川に隠れ住んだ。その知らせを聞いた頼朝が政子と劇的な対面をした場所といわれている。

熱海駅跡

熱海駅のあった場所は踊り場と呼ばれた小さな平地で今の南明ホテルの前だった。南明ホテルの前には豆相人車鉄道記念碑が、ホテルロビーには人車に関する展示コーナーが設けられている。

雨宮敬次郎碑

豆相人車鉄道建設に尽力した雨宮敬次郎碑。来宮駅北約1kmの熱海海園のほぼ中央に建つ。

